

あいち 国際プラザ



2024.9 No.162

AIA AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

公益財団法人 愛知県国際交流協会
ニュースレター



紙の一枚

日本赤十字社 やさしい日本語での講習の様子

■写真の内容については2～3ページの特集「愛知県の防災と外国人支援」で紹介しています。

Contents

- 特集 愛知県の防災と外国人支援** P.2～3
- AIA だより 協会の主催・共催事業などを掲載しています P.4～6
今年のワールド・コラボ・フェスタは10月26日(土) & 27日(日)開催♪
あいち多文化共生センターをご紹介します！
写真展「ペルー日本人移民125周年記念 ペルー・日本 友情の架け橋」と記念式典を開催しました。
第1回コミュニティ通訳講座を開催しました。第2回を11月に開催します！
- Focus on ! P.7
国際交流ステーション 明治学区連絡協議会
世界の街かどレポート JICA 海外協力隊 インドネシア
- CIR ライアンのでくてく日記 P.8
- 編集後記・協会案内図 P.8

当協会では賛助会員を募集しています。詳細は [愛知県国際交流協会 賛助会員](https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html) で **検索**

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html>

愛知県の防災と外国人支援

9月は防災月間！ということで今回は愛知県における災害対策と外国人支援について愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室にお話を伺いました。

愛知県の防災対策の概要について

近年、愛知県を含む太平洋沿岸地域では、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。一方、台風などの風水害についても、地球温暖化の影響により、激甚化・頻発化が懸念されています。

今年1月に発生した能登半島地震や、昨年6月に本県の東三河地域を中心に浸水被害が発生した大雨では、自然災害の恐ろしさを改めて認識することとなりました。

こうした災害から国民の生命、身体及び財産を保護するための法的基盤として「災害対策基本法」が定められており、災害予防、災害応急対策、災害復旧の各段階における国、都道府県、市町村等の責務が規定されています。

この責務に基づき、愛知県内に大規模な地震や風水害などの災害が発生し、又は発生する恐れがある場合は、県災害対策本部を設置します。

県災害対策本部は、知事を本部長とし、非常事態に対応するための全庁的な組織です。その主な役割は、①災害に関する情報収集 ②災害予防・災害応急対策の方針作成・実施 ③関係機関（国、自衛隊、警察、消防等）との連絡調整です。これにより、市町村をはじめとした各機関の災害対応の総合調整と支援を行います。

また、平時においては、県という広域自治体の立場から、各種防災計画の策定、防災拠点の整備、市町村や関係機関と連携した防災訓練の実施、県民への防災意識の普及啓発等に取り組んでいます。

愛知県の被災外国人支援の取組について

愛知県の外国人県民数は約31万人（2023年12月末現在）で、県民総人口の4.2%を占めています。在留資格別では、長期にわたり就労・居住する外国人県民の方が全体の6割となっており、外国人県民の方の安心・安全を守るための防災対策が重要な課題となっています。

本県では、災害時の外国人について、要配慮者として位置付ける一方、支援の対象としてだけでなく、地域の担い手としても位置付けています。

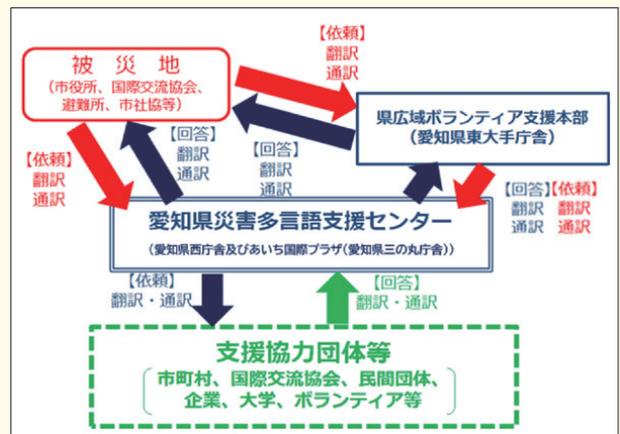
このような状況を踏まえ、本県では、言語、国籍、文化等の違いに関わらず、災害時に支え合う「多文化防災」を推進しています。その取組の一環として、「愛知県災害多言語支援センター」にて被災外国人の支援を行うこととしています。

大規模災害発生時、外国人は文化的背景や言語の違いが壁となり、災害や支援に関する情報を得られない恐れがあります。そのため、被災外国人を言語面で支援することを目的として、「愛知県災害多言語支援センター」を設置します。このセンターは、県と（公財）愛知県国際交流協会が共同で運営し、国・県などが発表する災害情報をwebページ等により多言語で発信するとともに、被災外国人を直接支援する市町村等の依頼に基づき通訳及び翻訳の支援を行います。



また、外国人県民の方が、平時から災害に備え、発災時の迅速な避難行動に繋がっていただくことを目的として、防災の基本情報をまとめた「あいち多文化防災ポケットガイド」を多言語で作成しました。これまでに日本語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語を作成し、今後も更に言語数を増やす予定です。ポケットガイドは「あいち多文化共生ネット」にも掲載しておりますので、ぜひ活用してください。

この他にも、「多文化防災」の推進に向け、市町村職員を対象とした災害時外国人支援活動講座の開催や、NPOやボランティア団体との連携強化などの取組を行っています。



▲愛知県災害多言語支援センターによる支援の流れ

この他にも、「多文化防災」の推進に向け、市町村職員を対象とした災害時外国人支援活動講座の開催や、NPOやボランティア団体との連携強化などの取組を行っています。

<https://www.pref.aichi.jp/syakaikatsudo/tabunka/information/disaster/>

多文化共生社会の実現に向けた取組 日本赤十字社愛知県支部

日本赤十字社愛知県支部は、2015年から多文化共生社会の実現に向けた取組を行っています。外国にルーツのある方々を要配慮者と捉えるのではなく、地域で支援者としても活動できるよう、これまで赤十字ボランティアの養成にも取り組んでいます。

2017年には、国内で初めて外国にルーツのある赤十字ボランティア講習指導員が誕生しました。現在では、日本語や母国語を活用しながら地域で救急法講習や防災意識向上を図る活動を展開し、地域の支援者となつて活躍されています。

また、日本赤十字社愛知県支部では災害時にも役立つ救急法等の講習を、必要に応じて「やさしい日本語」を使用して行っています。「やさしい日本語」を使用したテキストの開発にあたっては、愛知県立大学と共同で作成しました。こうした講習会を通じた防災の取組を、現在は県や市町村の多文化共生所管部署、国際交流協会、またNPOと連携しながら行っています。

赤十字が行う講習会等を通じて、防災への意識を高めるだけでなく、赤十字への活動に共感し、救急法の指導員資格の取得や、地域の赤十字ボランティアの活動に参加し、地域の支援者として活躍することを目指す方が少しずつ増えています。

今後も、誰もが安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現に向けた取組を進めていきます。



多文化防災関連団体をご紹介します 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋（通称：TABO ネット）は、2016年4月に発生した熊本地震をきっかけに発足した任意団体です。もうすぐ設立8年目を迎えます。言葉や文化、国籍の違いに関わらず、誰もが「防災」に関心を持ち、「災害時に支え合う」ことができるよう「多文化防災」をキーワードに活動を続けています。

普段の活動

不定期でミーティングや勉強会を行っています。また、FacebookとLINEオープンチャットで、災害情報、多文化防災に関わるニュースのシェアをしています。どなたでも見ることができるものです。

Facebookの検索画面に団体名を入力すると、ページが出てきます。LINEオープンチャットは、下記のQRコードからご参加いただくか、LINEの検索画面で「TABO ネット」と検索してください。ぜひフォロー・ご参加ください。

Facebook: <https://www.facebook.com/saigainet.aichi.nagoya/>

LINE オープンチャット: 「TABO ネット 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋」



Facebook



LINE
オープンチャット

これまでの主な成果物

「保存版 多文化防災ガイド」の制作（2019年3月発行：愛知県多文化共生推進室）

外国人県民は、言葉や生活習慣等の違いから災害時の情報の入手が難しく、要支援者となりがちです。しかし、適切に情報を伝えることができれば、ともに災害を乗り越える仲間や支援者として活躍してもらえる可能性があります。そのために必要な視点や、平時から取り組むポイント、役立つツールが紹介されています。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/saigai-tabunkabousaigaido2019.html>

掲載ページ ▶



「外国人 SNS 利用状況調査報告書」（2018年発行：TABO ネット）

愛知県内の外国人県民に効果的・効率的に情報を届けるための方法を探った調査報告書です。「外国人への情報発信には SNS の利用が有効」とよく言われますが、国籍や年代によって、よく使う SNS は異なります。その傾向を捉え、より効果的な情報発信をするための検討材料としてお使いください。

<https://saigainetaichinago.wixsite.com/tabonet/blank-8>

掲載ページ ▶



当協会では大規模災害発生時に、愛知県と共同で「愛知県災害多言語支援センター」を運営し、外国人県民に効果的に多言語で情報を伝達するとともに、市町村等に対して翻訳の支援等を行うこととしています。また、当協会の取組として「あいち多文化共生センター」では、外国人県民等からの相談に多言語で対応し、情報提供等を行います。

災害時には、この2つのセンターがより円滑に運営できるよう訓練を行い、体制の整備や他団体との関係づくりなど、日頃から備えています。

今年のワールド・コラボ・フェスタは10月26日(土) & 27日(日) 開催♪ ▶

今年も名古屋市・栄のオアシス21で「ワールド・コラボ・フェスタ」を開催します！

おかげさまで、今回は節目である20回目を無事に終えることができ、今年から心機一転、次の節目に向かって新しいものを作り上げていきたいと思っています。

今年はブース・ステージともに、ここ数年で最も多いご応募をいただきました。ありがとうございました。

初めて参加されるドキドキの団体さんも、フェスタ常連で着々と準備を進めていらっしゃる団体さんも、皆でフェスタを良いものにしましょう♪

このフェスタは国際交流・国際協力・多文化共生・SDGsに関する活動をしているNGO・NPOや企業等が集まってつくりあげる中部地区最大級の国際イベントです。

世界の歌、ダンスや演奏などの多彩なパフォーマンスやトークショーが繰り広げられる「ワールドステージ」、国際交流や海外とつながりのある活動を実施する団体・グループがそれぞれのブースで活動を紹介するための展示やワークショップ、海外のお菓子や小物などの物品販売を行う「コラボ広場」など、国籍や世代を超えて楽しめるプログラムが展開されます。

各ブースを楽しく回って、クイズに答え、スタンプを集めると抽選に参加できる「スタンプラリー」も行います。

土曜日の夕方には、お菓子や食べ物の詰め合わせが当たる「おいしい抽選会」、最終日のフィナーレには、ちよつとリッチな賞品が当たる「大抽選会」も設けていますので、ぜひ会場に足を運んでご参加ください。



▲昨年の様子



▲大抽選会～航空券やホテル食事券などが当たるかも!?!～



◆今年のAIAはペルーを紹介します！

愛知県国際交流協会では、毎年いろいろな国を取り上げて紹介していますが、今年はペルー共和国を選びました。

昨年は日本とペルーの外交関係樹立150周年の節目の年でした。また、愛知県には、日本で1番多い約8,000人のペルー人が住んでおり、この地域にとっても、大変なじみ深い国です。

ペルーと聞くと、インカ帝国、マチュピチュ遺跡やナスカの地上絵を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？そういった有名な歴史や世界遺産、文化・伝統などをはじめとしたディープなペルーの一面をご紹介します。この機会に、さらに理解を深めてみませんか？



▲ペルー伝統のお菓子アルファホーレス

ブースでは、在名古屋ペルー共和国総領事館のご協力のもと、様々な展示を行います。また、豊川市でペルーのお菓子を販売する「Fujiki CAKE」さんにお越しいただき、ペルーのお菓子などを販売します♪このほか、ペルーに関するワークショップも予定しておりますのでお楽しみに！

一方、ステージでは、知立市で活動するグループ「Los Romanticos」にペルーの伝統音楽&ダンスを披露していただきます。

ペルーへ行ってみたいくなるような楽しい展示やワークショップ、素敵なステージパフォーマンスをご用意して、皆さまのご来場・ご参加をお待ちしています！



▲Los Romanticosのみなさん

あいち多文化共生センターをご紹介します！



「あいち多文化共生センター」は、法務省が整備・運営の支援を進めている、外国人からの生活全般に係る情報提供や相談に多言語で対応する一元的相談窓口として、あいち国際プラザ 1 階に開設されています。

センターに寄せられる相談件数は外国人住民数の増加及び国籍の多様化に伴い、2018 年度を境に大幅な増加傾向にありましたが、この 2 年間はコロナ禍の落ち着きと共に横ばい状態となっています。

2023 年度の年間相談件数は 3,489 件で、相談内容は、在留手続き、労働トラブル、離婚や DV が依然として多く、近年は交通事故や SNS 上でのトラブルも多くなっています。高齢化による介護サービスに関する相談や配偶者の死亡にかかわる手続き等の相談なども寄せられています。今後ますます、外国人の高齢化に関連する相談が増えてくることが推測されます。

【多文化ソーシャルワーカーが相談に応じています】

センターでは、多文化ソーシャルワーカーが相談・情報提供を行っています。

対応言語及び日時は、以下のとおりです。お近くにお困りの外国人の方がいらっしゃいましたら、ご相談いただくようご案内ください。みなさんが、安心して生活できるように、多文化ソーシャルワーカーを始め、職員一丸となって対応していきますので、お気軽にご連絡ください。

また、より専門的な相談をご希望の外国人の方は、弁護士相談及び専門相談（在留関係、労働関係、消費生活関係）をご利用ください。詳しくは、当協会のウェブサイトをご確認ください。



あいち多文化共生センターの対応言語及び対応日時

言語：ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、フィリピン語/タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語、韓国語、ミャンマー語、ロシア語、ウクライナ語、日本語（14 言語）

日時：月曜日～土曜日 10:00～18:00
※祝祭日及び年末年始（12/29～1/3）を除く

問合せ：電話：052-961-7902
E-mail:sodan@aia.pref.aichi.jp
URL:<https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/sodancorner.html>



Facebook



LINE
ID : @852cmifc

【お役立ち情報を集めた冊子も作っています】

センターでは、外国人住民がより充実した行政サービスを受けることができるようにするため、当協会に寄せられた相談事例をもとに、外国人特有の問題やその背景となる各国事情、相談対応のポイント等を含めた相談対応冊子「相談員のための多文化ハンドブック」を作成し、市町村・市町国際交流協会、社会福祉関係機関等の相談窓口へ配布しています。

また、愛知県で生活をしている外国人住民や外国人相談担当者に役立つよう、在留手続き、労働、結婚・離婚、出産・育児、教育をはじめ日常生活に関する生活情報を集めた冊子「愛知生活便利帳」を作成しています。隔年で、英語・中国語版、ポルトガル語・スペイン語版を作成し、制度やサービスの説明時の指差しツールとしても活用できます。ウェブサイトでは、ウクライナ語版も掲載しています。いずれも以下のアドレスからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。

▼相談員のための多文化ハンドブック

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html>



▲愛知生活便利帳

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/benricho/index.html>

写真展「ペルー日本人移民 125 周年記念 ペルー・日本 友情の架け橋」と記念式典を開催しました



8月2日から16日の2週間にわたり、在名古屋ペルー共和国総領事館との共催で写真展「ペルー日本人移民 125 周年記念 ペルー・日本 友情の架け橋」をあいち国際プラザで開催しました。また初日には、開催を記念する式典をアイリスルームにて執り行いました。

ペルーは南米における日本人の最初の移住先で、組織的な日本人移住を最初に受け入れた国です。1899年に日本人がペルーに移住を開始して今年で125周年になります。写真展ではペルー日系人社会の歴史やペルーで著名な日系人の活躍を、約30枚の写真で紹介しました。

式典開会に先立ち、ルイス・エスピノサ・アギラール駐名古屋ペルー総領事は、「ペルーへ仕事の機会を求めて移住した日本人は1万8千人以上へのほり、現在、彼らの子孫20万人以上で構成される日系人コミュニティはペルーにおける様々な分野で重要な貢献をしている。また、日本にはペルーから移住した4万8千人のペルー人が在住しており、そのうち約8千人が愛知県に住んでいる。日本に歓迎されたからこそ、仕事や文化活動において活躍できている。今回の写真展で紹介している人物一人ひとりの活躍を礎に両国間の絆が強まってきたのだ」と開催にあたり感謝の言葉を述べられました。

主催者を代表して、当協会の神田会長は、「愛知県は日本でペルー人が一番多く住む県であり、それは在名古屋ペルー共和国総領事館が果たしている役割がとても大きい。地球の反対側からやってくるペルーの人々が住みやすく安心して生活できるよう大いにサポートしていくことが当協会の役割である。今回の写真展は総領事からの提案であり、総領事ご自身が当協会に頻りに足を運んで、我々との交流の橋渡し役を身をもって体現してくださっていることを心から歓迎し感謝している」と挨拶しました。

続いて日比津島市長の「サルー！」(スペイン語の乾杯)の発声とともに、和やかな歓談のひと時が持たれました。会場にはペルー料理の軽食も用意され、エスピノサ総領事が「ペルー料理には日系料理の存在を欠くことができない」とお話しされていた通り、米や豆を使った、日本人になじみのある味付けの料理が用意され、招待客はペルーの食を堪能しながら交流し、会場は終始和やかなムードに包まれました。

エスピノサ総領事の「日本とペルーの間には1万5,500 kmの距離があるけれど、そこには目では見ることのできない巨大な橋、つまり人々で作られた橋で両国は繋がっている」という言葉がとても印象的でした。この写真展がペルーと日本の関係を深め、両国間の絆がますます強くなるきっかけとなれば幸いです。



▲当協会の神田会長(左)とエスピノサ総領事(右)



▲式典会場の様子



▲写真展の様子

第1回コミュニティ通訳講座を開催しました。第2回を11月に開催します! ▶

8月10日(土)に外国人ヘルプライン東海との共催事業として、第1回コミュニティ通訳講座を開催しました。講師には、一般社団法人 cottonari の佐藤模子さんをお迎えし、母子保健など子育て支援をテーマに講演をしていただきました。また、学んだことを実践に活かす練習を行い、通訳者として必要な配慮について、体験を通して学ぶ講座となりました。

次回、第2回コミュニティ通訳講座は11月15日(金)です。通訳を利用される方を対象とした講座で、前兵庫県



▲講演中の様子



▲ワークショップの様子

国際交流協会職員の村松紀子さんに、外国人相談と通訳の必要性についてお話をいただきます。第1回の講座に参加していなくても、申し込みは可能ですので、多くの皆様にご参加いただければと思います。詳しくは当協会ウェブサイトの新着情報をご覧ください。

Focus on!

国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

明治学区連絡協議会

(日本語学習支援基金 日本語教室学習支援事業認定団体)

「明治 日本語しゃべろうかい」は、名古屋市南区の地域活動の中から立ち上がった日本語教室です。

明治学区という小学校区のコミュニティー、明治学区連絡協議会が主体となって2年前に、地域で生活を共にしている外国籍の児童・生徒と、その父母を中心に大人も含めて始めました。

キッカケは、外国籍の在住者が多くなった市営住宅で、生活ごみ処理などで当時の町内会長が対応に苦慮しており、トラブルの起きる前にと連絡協議会に相談が持ち込まれました。

学区としては、まずは外国籍の皆さんと交流の場を持つことが重要と考えました。

外国籍の皆さんと接する場として、地域住民のボランティア講師で「日本語教室」を始めてみようということ呼びかけました。

現在、学習者はネパール籍が9割、他はフィリピン・ベトナム・中国の方です。

毎月第1週～4週の土曜日の10時～12時にコミュニティセンターの施設を借り、毎回児童・生徒が10名ほど、父母など大人と幼児が7～8名ほどが教室に出席しています。

当初は学区内在住の方を対象に無料で始めた教室ですが、学習者を通じて口コミで学区外の参加者のほうが増加し、地域の活動としてはジレンマを抱え運営をしていますが、学習者は地域のイベント・行事にも参加をしてくれ、地域での交流という大目標は達していると言えるかな?という状況です。



▲教室の様子



▲学習支援の様子

明治学区連絡協議会

住所：名古屋市南区明治二丁目14-1

(明治コミュニティセンター内)

Tel：052-692-4975

Fax：052-692-4975

Focus on!

世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

インドネシア (JICA 海外協力隊 榊原 衣梨)

Selamat siang (スラマツト シアン) みなさん、こんにちは。

インドネシアは東南アジアの1つの国であり、赤道にほど近い、大小1000以上の島からなる世界最大の島国です。また日本同様、地震頻発国であり、津波や土砂災害、火山噴火といった自然災害の多い国でもあります。インドネシアの公用語はインドネシア語ですが、それぞれの島や地域ごとに民族があり、日常生活ではそれぞれの民族の言葉を使う人のほうが多いです。そして世界最多のイスラム教徒を有する国でもあります。イスラム教徒は決められた時間に毎日5回の礼拝をする決まりがあります。またその礼拝を行う際には、モスクと呼ばれる礼拝所で行うのが良いとされていることから、街の至るところにモスクがあります。

こちらの方は礼儀をととても重要視しています。特に目上の人に対してはその傾向が強いように感じます。それは学生間であっても同じです。また知らない人であっても笑顔で挨拶をしてくれます。こちらではトイレの際は左手を使うことから左手は「不浄の手」と呼ばれています。それもあつてか人へ物を渡す時や握手など人に対して行う行為には必ず右手を使うのですが、それはものごころつく前から礼儀の一つとして教えているようです。

こちらでの生活も1年半になりますが、未だに慣れないことの一つに予定を立てないということがあります。こちらの方は目先の予定を立てるということをしません。当日の朝、急に連絡がきて「今からどこどこへ行くよ」と言われることがしょっちゅうあります。また事前に予定を決めていたとしても変更になることもしょっちゅうありますが、これは彼らにとっては日常のため怒る人はいません。急な変更でも対応できる彼らを見てみると、何事も順序通りに行っていく日本人は少しみならってもいいのかな?と思うこともあります。



▲東南アジア最大級のモスク



▲イスラム教の断食明けにみんなでパーティー



CIRライアンのてくてく日記

※ CIR とは、「国際交流員」(Coordinator for International Relations) の略称です。

最近、初めて日本でサッカーの試合を見に行く機会がありました。それは浦和レッドダイヤモンズ対名古屋グランパスの試合で、会場は豊田スタジアムでした。とても楽しく観戦できましたし、アイルランドと日本のサッカーの試合の違いについていくつか興味深いことも気づきました。私はプロサッカーの試合にはあまり行かないので、最後に行ったのは小学生の頃で、家族で地元のチームがアイルランド国内選手権で試合するのを見に行った時でした。

アイルランドのサッカーファンと比較して、豊田スタジアムで見たファン達がどれだけ多く歌ったり、応援したりするかに驚きました。最初に気づいたのは、各チームのファンが座る席は完全に別々だったことです。アイルランドでは各チームのファンと一緒に座ります。豊田スタジアムで見たファンの旗や横断幕も非常に大きく、試合中は両チームのファンが歌を歌ったり、旗を振ったりしていました。これはアイルランドのサッカーの試合では見られない光景で、試合で時々私は目の前のゲームを見るのを忘れて熱心なファンを眺めてしまいました。

試合は得点が少なかったものの、非常に興奮する展開で、驚くほど多くのイエローカードが出されました。残念ながら、名古屋グランパスは1点差で敗れ、同点ゴールがオフサイドのため取り消され、最後は10人で試合を終えなければなりません(グランパスの1人がレッドカードで退場)。それでも私は試合をととても楽しみました。また近い内にプロサッカー試合を見に行くことを楽しみにしています。

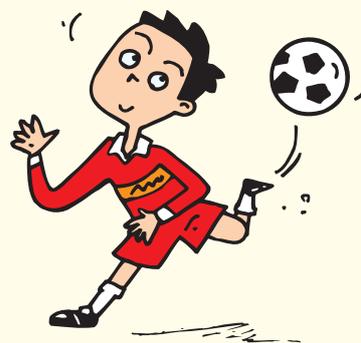
～ワンポイント英会話～

■ Compared to~ (～と比較して)

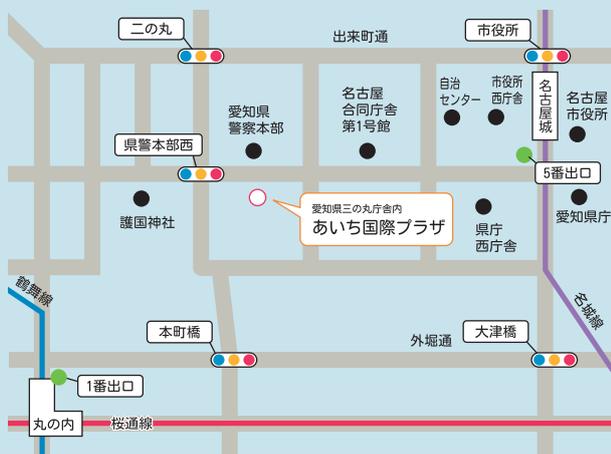
〈例〉 Compared to in Irish soccer fans...
アイルランドのサッカーファンと比較して...

■ Although~ (～ものの)

〈例〉 Although the game was low scoring it was exciting
試合は得点が少なかったものの、非常に興奮する展開



■ 協会案内図及び交通案内



地下鉄名城線「名古屋城」駅5番出口より徒歩5分
地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅1番出口より徒歩10分

■ 編集後記

みなさん、災害対策って何かしていますか。私は防災グッズを玄関に置いていますが最近中身のチェックをしていないのでそろそろしようと思います。家の中の危険な箇所や近くの避難所・集合場所のチェックもこれを機にまとめてしましましょう。(甲村)

「あいち国際プラザ」の発行月が変わりました！今年度より6月、9月、12月、3月の年4回の発行となりました。よろしく願いたします。

■ 開館時間案内

開館時間 月曜日から土曜日 10:00～18:00
(金曜日は10:00～20:30)
休館日 日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

■ 編集・発行

令和6年9月17日発行
公益財団法人愛知県国際交流協会
〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 (愛知県三の丸庁舎内)
TEL: 052-961-7903 / 052-961-8744
FAX: 052-961-8045
URL: <https://www2.aia.pref.aichi.jp/>

*本誌を作成するにあたり、企業・個人の方に取材を通じてご協力いただいておりますが、登場する企業・個人の営業活動の促進を目的とするものではありません。